

# やまぐちっ子学力向上だより

第 153 号 R6.12.5

山口県教育庁義務教育課

小学校版

## 山口県学力定着状況確認問題にこめた授業改善のメッセージ

10月に実施した山口県学力定着状況確認問題の結果を公表しました。  
各校種・教科の結果については、以下のとおりです。



↑詳細はこちら

### ◆小学校平均正答率

	国語	算数	理科
第5学年	69.1%	55.3%	53.8%
第6学年	64.8%	49.2%*	

### ◆中学校平均正答率

	国語	数学	理科	英語
第1学年	62.6%	58.6%		
第2学年	57.8%	52.0%	42.4%*	46.8%

\*…大問4（4）を採点対象外とした場合

\*…大問1（3）を採点対象外とした場合

各学校においては、全教職員で、本調査の結果の把握と分析を行い、今後の取組について考えていきましょう。その際、各問題にこめられた授業改善のメッセージを踏まえ、日々の授業づくりにも生かしていただきたいと思っています。

本調査の各問題にこめた授業改善のメッセージの例を、いくつか紹介します。

本号では、小学校についてです。

### 小学校国語

○子どもが困ったときに、その解決方法を考えられるようにする。

#### 5・6年大問1（以下抜粋）

北山さんは、職人の方を紹介する文章を書くことにし、職人の方にインタビューしたことをまとめました。しかし、どのように書けばよいか分からず困りました。そこで、大田さんが書いた文章を書かれている内容の順序に着目して読み返しました。



岩国市観光ボランティアの方は、錦帯橋やまわりのまちなみのよさを伝えるために活動しています。具体的には、錦帯橋についてのガイドをしたり、歴史ある建物で郷土料理が食べられるところを紹介したりしています。岩国のまちの歴史と文化を分かりやすく伝えたいという思いで活動しています。その心がけが素晴らしいと思います。

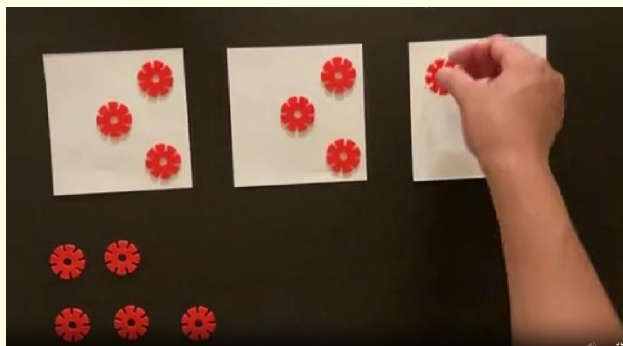
問題文に出てくる北山さんが、自分で解決方法を考えることができているのは、「友達の意見を参考にして考える」といった学び方を経験しているからです。文章を書く前に、見通しをつかませることも大切ですが、書いている中で困ったことがあったときに、「どのように解決すればよいか」を考えさせたり教えたりしていくことも積極的に行っていきましょう。

## 小学校算数

○立式の意味や答えの求め方等の説明までできるようにする。

5年大問8 6年大問7 (以下抜粋)

次の動画は、「 $15 \div 3$ 」の計算について、おはじきを操作しながら説明したときの様子です。この操作は、次のどの問題を考えるときの操作だといえますか。



- 15個のクッキーを5人で同じ数ずつ分けると、1人分はいくつになるでしょう。
- 15個のクッキーを5個ずつ分けると、いくつのまとまりを作ることができるでしょう。
- 15個のクッキーを3個ずつ分けると、いくつのまとまりを作ることができるでしょう。
- 15個のクッキーを3人で同じ数ずつ分けると、1人分はいくつになるでしょう。

子どもたちには、「立式できる」「計算の答えが出せる」ことだけに関心をもつのではなく、「立式の意味が分かる」「なぜその答えになるのかが分かる」ことにも関心をもってほしいと思います。授業では、この問題のように、操作活動なども取り入れながら、立式の意味や解決方法等を説明する活動を日常的に行っていきましょう。

## 小学校理科

○科学的に正しく結果が得られるための実験方法を考えられるようにする。

5年大問6 (以下抜粋)

たろうさんたちのクラスでは、インゲンマメの種子を発芽させるために、必要な条件について話し合いました。

『クラスで考えた予想』 ①水 ②土 ③肥料<sup>ひりょう</sup> ④暗さ ⑤あたたかさ

予想した後、たろうさんは、インゲンマメを発芽させるまでの様子を動画を見て、次のような意見を出しました。



たろうさん

この実験だけでは、本当に水が必要かどうか分からないと思います。



水が必要であると確かめるためには、どのような実験を行えばよいか説明しましょう。

日頃の授業の中で、問題に対して自分たちの考えを予想すること、自分たちの予想が正しいかどうか検証するための実験方法が妥当なものかを考える活動を積極的に取り入れることが大切です。子どもたちの対話的な活動の中で、実験方法が問題解決に向かっているか、子どもたち自身で見直したり、確認したりできるように仕組んでいきましょう。

次号は、中学校の問題を取り上げます。